

新日本銀行券の 発行（改刷）について

理財局国庫課課長補佐
大内 聡



（新5千円券を披露する谷垣財務大臣。左は石井副大臣、右は七条大臣政務官）

はじめに

谷垣財務大臣は、去る6月17日、独立行政法人国立印刷局滝野川工場において、新様式の日本銀行券の製造現場を視察した上で、樋口一葉を肖像とする新5千円券の試刷券（印刷用の版面の本となる「原版」をもとに試刷りさせたもの）を披露した。

平成14年8月2日に、塩川正十郎前財務大臣が、現行の日本銀行券の1万円券、5千円券、及び千円券について、偽造防止対策の観点から、様式を新たに（いわゆる改刷）新券を製造することを発表して以来、財務省・日本銀行・国立印刷局は所要の準備を進めてきた。新1万円券は昨年7月29日、新千円券は同年10月24日にそれぞれ印刷を開始した。新5千円券については、現在、実際に印刷する版面を作製しており、所要の確認等を行った上、本年8月頃には印刷を開始できる見通しとなっている。これらを踏まえ、新様式の日本銀行券の発行開始時期については、昨年12月には本年秋頃と発表していたが、谷垣大臣より、新5千円券の試刷券を披露する際に、本年11月頃には諸準備が整う見通しが確認されたので、11月頃を目処としたいと発表した。

新1万円日本銀行券

表



裏



新5千円日本銀行券

表



裏



新千円日本銀行券

表



裏



(表1) 改刷までの経過期間

券種	発行日 (B券)	経過 期間	発行日 (C券)	経過 期間	発行日 現行券(D券)
五百円	昭和26年4月2日	約19年	昭和44年11月1日		
千円	昭和25年1月7日	約14年	昭和38年11月1日	21年	昭和59年11月1日
二千元					平成12年7月19日
五千元			昭和32年10月1日	約27年	昭和59年11月1日
一万円			昭和33年12月1日	約26年	昭和59年11月1日

※B～Dの記号は、日本銀行において券を特定するために定めた種別表示である。

(表2) パソコンの所有台数の推移(1000世帯あたり)

(単位:台、%)

年	普及台数	普及率
昭和59年	61	5.8
平成元年	134	12.4
平成6年	190	16.6
平成11年	485 (377世帯)	37.7

(出典:「全国消費実態調査報告」総務省統計局)

(表3) コピー機(複写機)の出荷台数の推移(単位:台、%)

年	出荷台数	前年比	
		内 カラー コピー機	内 カラー コピー機
平成9年	2,480,807	63,539	116.8
平成10年	2,302,141	43,866	92.8
平成11年	2,240,740	138,932	97.3
平成12年	1,971,208	150,090	88.0
平成13年	1,868,318	172,254	94.8
平成14年	1,900,925	296,818	101.7

(出典:「平成14年機械統計年報」経済産業省経済産業政策局)

(表4) 偽造日本銀行券の発見枚数(単位:枚)

	11年	12年	13年	14年	15年	16年 (5月末現在)
1万円	2,346	2,394	3,207	6,815	6,138	2,238
5千円	1,051	1,671	1,274	754	1,097	387
2千円	—	2	4	5	99	3
千円	25	190	3,128	12,637	9,576	9,950
合計	3,422	4,257	7,613	20,211	16,910	12,578

(警察庁ホームページより)

- (注) 1. 発見枚数とは、届出等により警察が押収した枚数である。
 2. 平成11年以降の偽造一万円券及び偽造五千円券の増加は、主にパソコン、プリンター等の機器により偽造されたものの増加による。
 3. 平成13年以降の偽造千円券の増加は、主に両替機、飲料水の自動販売機等を対象に行使された特異な偽造千円券行使事件の発生による。

2. 諸外国との比較

流通枚数に対する偽造券発見枚数

- ・日本: 79万枚に1枚(2003年)
- ・米国: 1万枚に1枚(2003年3月レポート)[日本の約79倍]
- ・ユーロ: 1.6万枚に1枚(2003年) [日本の約49倍]

1. 今回の改刷の目的

日本銀行券については、これまで偽造抵抗力強化の観点等から、概ね20年毎に改刷を行ってきた(表1参照)。現在発行している日本銀行券(2千円券を除く)についても、昭和59年に発行を開始して以来、20年近くが経過している。その間、コピー機・パソコン関連機器の普及・高性能化(表2、3参照)もあり、一般の複写・印刷レベルが大幅に向上した。また、諸外国でもユーロなど最新の偽造防止技術を採用した銀行券が発行されている。このような状況に鑑みれば、我が国も銀行券の偽造抵抗力強化を図るべき時期になっていると考えられる。なお、銀行券の偽造事件については、我が国においても近年増加し、昨年(平成15年)は16,910枚の偽造券が発見されているが、諸外国に比べれば依然少ないものと言える(表4参照)。

偽造の増加に対しては、これまでのところ、

日本銀行とともに関係業界に対して、現金取扱機器の改良等による偽造防止への対応を要請し、また市中に流通する銀行券のクリーン度を向上させることにより偽造券の発見を容易にする等の対応をとってきているところである。このように、通貨の偽造については、各種の技術的な対応方法があり、改刷も選択肢の一つではあるが、民間における負担や国民の利便も考慮する必要があることから、偽造の増加が直ちに改刷に結びつくわけではない。

2. 偽造防止技術

新様式券には、①偽造券の作成を困難にする、

(表5) 新様式券に採用される主な偽造防止技術

	採用予定技術	外国券採用状況		現行日銀券採用状況	
		ユーロ券	ドル券	2千	万・5千・千
視覚・触覚による真偽判別 パソコン等による複製が困難	ホログラム<1万円券、5千円券のみ採用> 〔角度を変えると色や模様が異なって見えるもの。〕	○			
	潜像模様 〔傾けると文字や数字が現れるもの。〕			○	
ルーペ等による真偽判別	パールインキ 〔傾けるとピンク色の模様が現れるもの。〕	○		○	
	マイクロ文字 〔コピー機等で再現困難な微小文字。〕	○	○	○	○
パソコン等による複製が困難	発光インキ(有色) 〔紫外線をあてると発光するインキ。〕	○	○	○	○
	すき入れバーパターン 〔棒状の模様をすき入れし、その表裏面に画線を印刷して隠蔽したもの。〕	○			

(注) 上記のほか、「すき入れ」「凹版印刷」「超細密画線」などの偽造防止技術を採用。

②現金取扱機器の検知能力強化に資する、③視覚による偽造券の発見を容易にする、等の観点から、最新の偽造防止技術を採用することとしている。具体的には、2千円券でも採用した「パールインキ」、「潜像模様」の他、新たに「ホログラム」や「すき入れバーパターン」等を採用し(表5、参考資料1、2参照)、新券は世界でも最も高いレベルの偽造抵抗力をもつものになると考えている。

また、日常的な紙幣交換の際に最も有効になるのは、みつまたやマニラ麻等を調査することにより出てくる独特の風合いの他、従来から紙幣印刷の際に使用している凹版印刷に、全体として盛りの高いインキを使用することにより出てくる、よりはっきりとしたザラザラ感が考えられる。コピー機やスキャナー等の複写はオフセット印刷(平板印刷)でありツルツルのものとなるので、その識別は極めて容易になると考えている。

なお、銀行券に採用する偽造防止技術については、セキュリティ上の観点から明らかにできない部分もあるので、細部についてはコメントを差控えた。

3. 新銀行券の様式

表面の肖像については、我が国を始めとした現行券において、従来の政治家中心から文化人の採用が増加している流れを踏まえ、1万円券は福沢諭吉、5千円券は樋口一葉、千円券は野口英世とした。また、裏の図柄については、1万円券は宇治平等院の鳳凰像、5千円券は尾形光琳の燕子花図、千円券は富士山と桜をテーマにした。

寸法については、縦の長さは現行券と変わらないが、それぞれの券種における違いをより明確にするため、横の長さを5千

円券のみ1ミリ長くした(表6参照)。

このほか、目の不自由な方の利便のために、指の触覚により識別するマークを採用した(表7参照)。また、前述の、盛りの高いインキを全体として使用したことによる感触の違いによっても識別が容易になるものと考えている。

(表6) 日銀券のサイズ(各券縦76mm共通) (単位:mm)

横 幅	一 万 円	五 千 円	二 千 円	千 円
現 行	160	+5 ^s _y → 155	+1 ^s _y → 154	+4 ^s _y → 150
改刷後	160	+4 ^s _y → 156	+2 ^s _y → 154	+4 ^s _y → 150

(表7) 識別マーク

一 万 円	五 千 円	二 千 円	千 円
位置は、左右下部			

4. 図柄の決定過程

まず、銀行券の発行に関する法律的な仕組みについて整理しておく。

日本銀行法第46条では、「第1項 日本銀行

は、銀行券を発行する。」、[第2項 前項の規定により日本銀行が発行する銀行券は、法貨として無制限に通用する。]とされている。これが、現在日常に使われているお札の発行に関する根拠法規であり、また、これによって、すべての支払いに日本銀行券を強制通用力をもって使用することができることになる。さらに、こうしたお札の種類や様式については、同じく、日本銀行法第47条において、「第1項 日本銀行券の種類は、政令で定める。」、[第2項 日本銀行券の様式は、財務大臣が定め、これを公示する。]と規定されており、新しいお札の人物像等の図柄は、財務大臣が定めた上、日本銀行券の様式に関する告示を官報に掲載し「公示」することになる。なお、お札の種類については、日本銀行法施行令第13条によって、「日本銀行券の種類は、一万円、五千円、二千円及び千円の四種類とする。」と規定されている。

(注) 日本銀行法による銀行券の「発行」については、日本銀行の窓口から払い出されることをもって「発行」にあたりと解釈している。したがって、独立行政法人国立印刷局において印刷、検査が終了し、日本銀行に納入された段階では未だ銀行券は発行されていないことになる。

具体的には、銀行券の図柄については、偽造防止技術等を織り込む必要があることから、財務省、印刷局、日本銀行が相談しつつ原案を作成し、最終的には財務大臣が決定している。銀行券は額面価値が高く、特に偽造防止に重点が置かれているため、特殊な製版方法、特殊な印刷機械による印刷方法を十分に承知した上で、図柄に偽造防止技術、真偽の鑑定要素等を織り込む必要がある。このため、銀行券の図柄等は、我が国はもちろん諸外国でも、印刷局の専門の工芸官によって原案が作成されるのが通例である。

5. 肖像

次に、お札の顔ともいべき人物像の選定について説明してみたい。われわれ人間は、常日頃から人の顔をよく見ており、顔によって人を識別できる優れた能力を有している。また同じ人についても、一見して喜怒哀楽や健康状態までも認識できることが多い。したがって、紙幣の肖像の表情や陰影等を極めて微妙に彫刻することによって、紙幣の偽造には著しい困難が伴うほか、肖像の僅かな違いが全体として奇妙な印象を与えることになる。そのため、お札の肖像となる人像の選定にあたっては、偽造防止及び肖像彫刻という技術的、専門的な観点から適切であるかどうかということが極めて重要となる。他方、銀行券には国民に親しまれて使用されなければならないという側面もあるため、財務省は各種調査等を通じて国民各層の意向の把握に努めている。

今回の改刷は偽造抵抗力強化の観点から行うものであり、肖像の入れ替えを主たる目的とするものではない。肖像については、我が国を始めとした現行券において、従来の政治家中心から文化人の採用が増加しており、今回もそうした流れを踏まえたものとしつつ、発行までの期間を短縮する観点から全面的に見直すことはしなかった。具体的には、発行枚数が全体の約6割を占める1万円券の肖像は引き続き福沢諭吉とした。

一方、これを機に女性の社会進出の進展や文化人の中でのバランスに配慮して、今まで日本銀行券の肖像として選択したことのなかった女性や科学者を採用することとした。5千円券に女性として樋口一葉、千円券に科学者として野口英世を選んだのは、①学校の教科書にも登場するなど、国民各層にわたり広く知られている、②すぐれた業績により知名度が高い、といった理由によるものである。女性の肖像としては、明治期の政府紙幣において神功(じんぐう)皇后が使われた例がある。また、2千円券の裏面

には紫式部の顔が描かれている。

なお、これまでのお札の人物像を整理してみると、参考資料3（写真つき）のとおりとなる。

(注1) 神功皇后の肖像が使われた政府紙幣

券種	製造期間	発行年月	通用禁止年月
拾円券	明治15年 ～明治17年	明治16年9月	明治32年12月
五円券	明治14年 ～明治17年	明治15年1月	明治32年12月
壹円券	明治12年 ～明治14年	明治14年1月	明治32年12月

(注2)

神功皇后とは、^{ちゆうあいてんのう}仲哀天皇の皇后。名は^{おきながたらしひめ}息長足媛。
^{かいかてんのう}開花天皇第5世の孫、^{おきながすくねお}息長宿禰王の女。^{むすめ}熊襲叛するに及び天皇とともに西征、^{かしいぐう}天皇香椎宮に崩御の後、^{しらぎ}新羅を征して凱旋し、^{ほわたわけのみこ}菅田別皇子（^{おうじんてんのう}応神天皇）を筑紫で出産、摂政70年にして崩。（記紀伝承による）
 出典：広辞苑

6. 裏面の図柄

裏面の図柄については、従来、基本的には動物、風景、建造物等の中から、我が国を代表するものであり、国民にも親しみを持たれるとの観点や偽造防止の観点を総合的に考慮して選択してきている。今回も同様の方向で検討を進めたところであり、券種毎の考え方を示すと次のとおり。

(1) 1万円券

最高券面額に相応しい格の高いテーマとすることが望ましく、瑞鳥であり、旧1万円券の裏面でも図案化されていた鳳凰を選んだ。鳳凰は、我が国では国宝である宇治平等院の鳳凰が代表例と考えられることから、当該鳳凰像を素材とした。

因みに、現在までに発行された日本銀行券に描かれた動物には、鳳凰のほかに、雉、鶴、鼠、猪、馬、鶏、ライオン、鳩がある（図1参照）。

図1 日本銀行券に描かれた動物



(2) 5千円券

表面の肖像が女性であることから、動物や建造物というよりは花をあしらうのが適当と考えた。1万円券の鳳凰が国宝であることとのバランスや美的センスを勘案して、国宝級の美術品で花をモチーフにしたものから選択し、尾形光琳の燕子花図（かきつばたず）とした。燕子花図は、六曲屏風で江戸時代（18世紀）の作品。金箔地一色の大画面に、群青と緑青だけを用いて燕子花の群生を描いている。国宝で根津美術館収蔵。尾形光琳は江戸中期の画家（1658年から1716年）で、他に「紅白梅図屏風」、「八橋蒔絵螺鈿硯箱」等がある。

(3) 千円券

1万円券や5千円券のテーマ（鳥、花）とのバランスを勘案して、風景を選択することとし、国民にも最も馴染みがあると思われる富士山と桜を用いることとした。

富士山については、本栖湖近くの山の上から、

岡田紅陽氏（生涯富士山を撮り続けた写真家。1895年～1972年）が撮影した写真をベースとしている。このような見事な逆さ富士は、天候、風の強さ、太陽の角度や光の強さ等の多くの条件が揃ったときでなければ見ることはできないと言われている。

7. 民間への影響

今般の改刷に伴い、日本銀行券を取り扱う金融機関のATMや自動販売機等の機械の改造が必要となるが、機械の更新時期と重なる場合等も考えられることから、改刷に係る費用だけを取り出して正確に見込むことは困難である。敢えて、一定の仮定をおいて大まかな試算を行えば、全体で約3000億～7000億円程度と見込まれる。機械メーカーにとっては、新たな需要ということになるが、金融機関等機器の保有者にとっては費用負担となる。ATMや自動販売機等の機械について改造等の費用が生じることは事実であるが、日本銀行券に対する国民の信頼の維持、通貨制度の安定の観点から今般の改刷を行うことについて、ご理解を頂きたいと考えている。

なお、新しい日本銀行券が流通することによって、国民の気分が一新し明るくなることは、大きな経済効果になるのではないかと考えている。

(注) 「(新しい日本銀行券の発行は)気分が一新すると思うんですね。・・・気分が明るくなるのではないかと。そのことは大きい経済効果ではないかと見ておまして、今日も閣議の席で総理は、「これはひとつ非常に験がいいことだ」ということを言って喜んでおまして、みんながそういう気分になっていると思っております。」(平成15年7月29日の塩川財務大臣の記者会見発言)

「やはり新しい券が発行されますと、人心一新というか、気分一新をして、明

るい雰囲気にと寄与することができるんじゃないかなと思います。今、経済、ようやく明るい兆しがみえてまいりましたけれども、それに追い込みをかけてというのはちょっと言い過ぎかもしれませんが、そういう経済効果があるのではないかなと思っております。・・・こういう新しい、人心一新で、新鮮なイメージがデフレ脱却にもつながればいいなと思っております。」(平成16年6月17日の谷垣財務大臣の記者会見発言)

8. 発行までの手続き

新銀行券の印刷開始のためには、①印刷局の工芸官による下図の作成、②凹版彫刻（工芸官による肖像・唐草模様の彫刻）及び彩紋彫刻（特殊な彫刻機による飾り模様や唐草状の模様（彩紋）の彫刻）による原版の作成、③原版から印刷に使う実用版の作成、④試刷り、の工程が必要となる。前述の通り、新1万券は昨年7月29日、新千円券は同年10月24日に印刷を開始した。紙幣は、印刷、検査、断裁の作業を経て、国立印刷局から日本銀行に納入される。

なお、日本銀行から実際に新紙幣を発行するためには相当程度の備蓄（刷りだめ）が必要となるため、新紙幣の実際の発行は、本年11月頃となる予定である。具体的な発行開始日については、様式を定める財務省告示と合わせて公示する予定であり、準備が整い次第、すみやかに公表することとしたいと考えている。

具体的な新様式券への切替えは、日銀が市中から旧券を受け入れる一方、市中における日本銀行券の需要動向等に応じて新様式券を払い出す形で入れ替えていくことから、しばらくの間、新旧両券が同時に流通することとなる。また、当分の間は、新旧両券の並行発行となる。また、確たる見通しを示すことは難しいが、発行開始から2年程度でほぼ新様式券に入れ替わるのではないかと考えている。

もちろん、旧券の効力は失われない。

(参考資料1)新様式券に採用される主な偽造防止技術

ホログラム



画像の変化状態

【技術概要】

角度を変えると色や模様が変わって見えるもの。

潜像模様



正面



潜像効果

【技術概要】

角度を変えると異なる数字が現れるもの。

パールインキ

正面



斜め



【技術概要】

傾けるとピンク色の模様が現れるもの。

マイクロ文字

凹版
(黒文字)



オフセット
(黒文字)



【技術概要】

コピー機等で再現困難な微小文字。

発光インキ



可視光撮影



紫外光撮影

有色発光印刷

【技術概要】

紫外線をあてると発光するインキ。

すき入れバーパターン

肉眼で見た場合



すかして見た場合

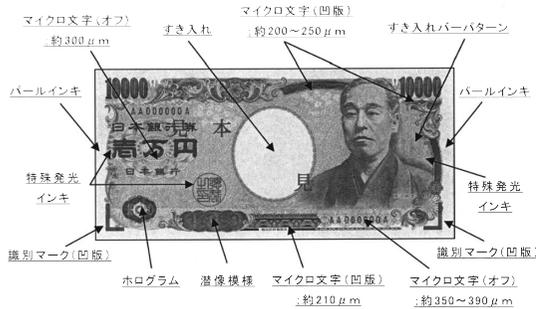


【技術概要】

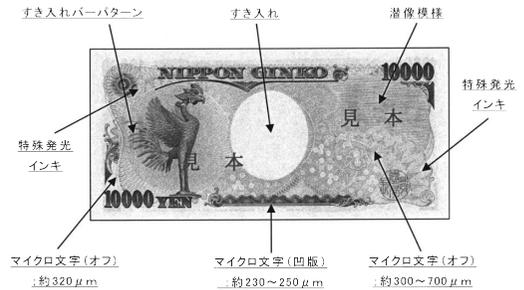
パソコン、カラーコピー等で再現しにくいもの。

(参考資料2)新様式券に採用される主な偽造防止技術の配置

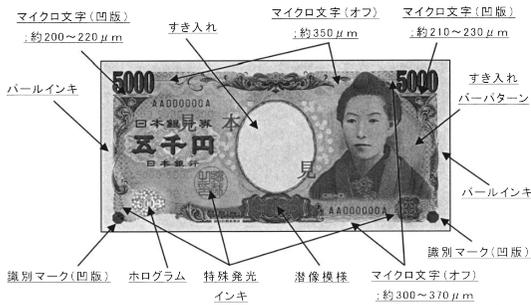
① 1万円券(表面)に採用される偽造防止技術



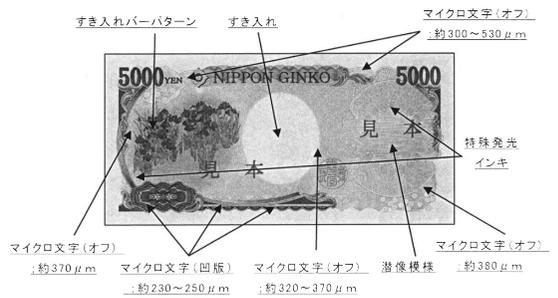
② 1万円券(裏面)に採用される偽造防止技術



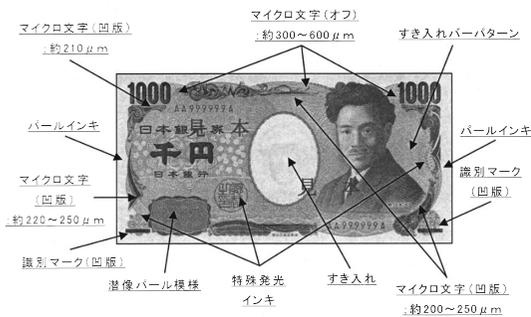
③ 5千円券(表面)に採用される偽造防止技術



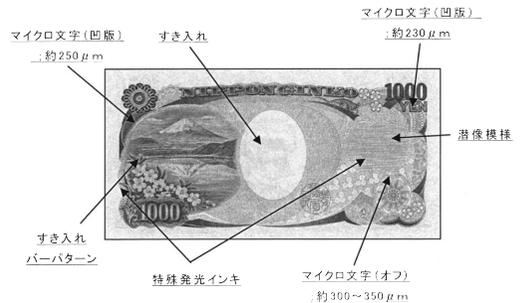
④ 5千円券(裏面)に採用される偽造防止技術



⑤ 千円券(表面)に採用される偽造防止技術



⑥ 千円券(裏面)に採用される偽造防止技術



(参考資料3)紙幣の肖像の推移
(政府紙幣)

	五十銭券	一円券	五円券	十円券	二十円券	五十円券	百円券	二百円券	五百円券	千円券	五千円券	一万円券
改造紙幣 (明治14~)		神功皇后	神功皇后	神功皇后								
小額紙幣(B券) (昭和23年~)	板垣退助											

(日本銀行券)

兌換銀券(銀兌換) (明18~)		大黒天	大黒天	大黒天			大黒天					
〃 (明21~)		武内宿禰	菅原道真	和氣清麻呂			藤原鎌足					
兌換券(金兌換) (明32~)			武内宿禰	和氣清麻呂			藤原鎌足					
兌換券 (明43~)			菅原道真 武内宿禰	和氣清麻呂								
〃 (大6~)					菅原道真							
〃 (昭5~)			菅原道真	和氣清麻呂	藤原鎌足		聖徳太子					
〃 (昭17~)			菅原道真				武内宿禰 藤原鎌足			日本武尊		
日銀券 (昭18~)		武内宿禰	菅原道真	和氣清麻呂			聖徳太子					
〃 (昭20~)				和氣清麻呂			聖徳太子					
日銀券(A券) (昭21~)		二宮尊徳					聖徳太子					
日銀券(B券) (昭25~)						高橋是清	板垣退助		岩倉具視	聖徳太子		
日銀券(C券) (昭32~)									岩倉具視	伊藤博文	聖徳太子	聖徳太子
現行日銀券(D券) (昭59~)										夏目漱石	新渡戸稲造	福沢諭吉

